

乙媛旅館と上野先生

長房囲碁同好会 池口隆久

もう 55 年以上も前、囲碁が面白くなりかけた頃のことです。西八王子駅の近くに碁会所がありました。乙媛旅館の道路わきに「離れ」があり、旅館主の鹿島さんがそこで碁会所を開いていました。

院生上がりの上野先生が、指導者をつとめており、いつも碁会所にいました。棋力はずば抜けていて、高段者の中山さん（山中さん？）も青柳さんも、とて



もかないませんでした。希望者には指導碁を打って来て「はい、200 円」でした。私は 9 子で 50 手くらいまでは手本になる布石を教わり碁罫紙に書き写してもらいましたが、やはり「はい、200 円」でした。上野先生は「秀哉先生は、…」とよく口にされていましたが、院生時代に秀哉先生に手解きを受けていたのかもしれませんが。5 年前、古書店で「本因坊秀哉全集（全 6 巻）」を、わくわくする気持を押さえるのに大変でしたが、冷静さを装って、買い求めました。上野先生の尊敬していた本因坊秀哉の打ち碁集であるから当然でしょう。

上野先生は当時 70 歳だったと思えます。はるかに若い女性と結婚されたとは聞いていましたが、ある日先生が抱いている赤ちゃんを見て、私はうっかり「お孫さんですか」と言ってしまいました。先生は「いや、子どもですよ」と言って、とても嬉しそうな顔をして男の子を抱いていました。10 年ほど前に、上野先生の一番弟子の



川久保さんにお会いしました。川久保さんと、「上野先生は、あれから明神町に
暮会所を移してしばらく経ってからお亡くなりになりましたよ」、「あの男の子
はどうしました」、「東大に入りました」、「はやり遺伝子ですかね」とまあ、こ
んな会話を交わしました。

(2021年12月)